労災ケア通信

第97号
2026年11月16日
発行：一般財団法人
労災サポートセンター

〒102－0073
東京都千代田区九段北4－1－3
飛栄九段北ビル10F
TEL 03－6834－2510（代表）
FAX 03－6834－2530
ホームページアドレス
https://www.rousaisc.or.jp

ケアプラザだより

ケアプラザ岩見沢

「演武や太鼓に感動！　屋台も大にぎわい」

総務課

8月5日（水）、恒例となった納涼祭の日がやってきました。

今年は、少林寺拳法栗山スポーツ少年団による少林寺拳法の演武や、栗沢太鼓同志会による太鼓の演奏が行われました。

少年団のメンバーは子供から高校生まで幅広く、元気いっぱいの演武を披露してくださいました

会場となった施設のアトリウムに大迫力の太鼓の音色が響き渡り、入居者の皆様も職員達も心から感動しました。

納涼祭に併せて、初めて企画した屋台では、地元の店の方々がコーヒー、パン、焼き鳥、かき氷などを販売し、職員は紐を引いて景品をあてる「紐引き」を出店しました。

屋台ではパンの種類がたくさんあり、何を買おうか悩んだり、仲間と一緒にテーブルを囲んでおしゃべりをしながら食べたりと、施設全体が祭りムードに包まれた賑やかな一日となりました。



少林寺拳法栗山スポーツ少年団の皆様
力強い演武！



屋台で買い物をする入居者の方々

ケアプラザ富谷

「車いすやストレッチャーの乗車をより安全に」

総務課

7月29日（水）、施設バスを利用する際の車いすやストレッチャーの乗車方法について研修を行いました。

研修には事務職員と介護課職員が参加し、バスのリフトを使用した車いすの乗降や、バス車内での車いすやストレッチャーの固定方法について実技を交えながら学びました。

これからも入居者の皆様が安心してバスを利用していただけるよう、職員一人ひとりが正しい知識と技術を身につける貴重な機会となりました。

今後も引き続き安全な送迎に努めていきたいと思います。



ストレッチャーの乗車を練習する職員

「富谷カフェ」

介護課　山本　蒼央

8月26日（水）、ケアプラザ富谷玄関前ホールにて、キッチンカー喫茶「APRTTMENT」の伊奈さんをお招きし、富谷カフェを開催しました。

例年よりもたくさんの入居者の方々が参加し、会場はにぎやかな雰囲気となりました。

会場では、本格的なコーヒーをその場で提供して頂き、入居者の方々は淹れ立ての香りを楽しみながら「おいしい」と何度もおかわりされていました。また、焼き菓子の提供もあり、選んだ好みのお菓子とコーヒーを囲みながら会話も弾み、普段とは違った空間で楽しいひと時を過ごす事ができました。

今回の「富谷カフェ」を通して、好きなものを自分で選ぶ楽しさや、普段とは異なる空間が入居者の笑顔

につながると感じました。これからも施設に居ながら楽しめる行事を計画していきたいです。



本格的なコーヒーを提供していただいた
キッチンカー喫茶「APRTTMENT」伊奈さん（右端）

「労災重度被災者作品展に向けて」
～元気よ届けひまわりにのせて～

総務課

今年度も、労災重度被災者作品展に向けて入居者の方々の有志で大きな作品を制作しました。

今年の作品テーマは「元気よ届けひまわりにのせて」で、4月頃から制作を開始し、7月上旬に完成しました。今年も、新しく入られた入居者の方々が制作メンバーに加わり、活動中はおしゃべりを楽しみながら作品作りに没頭しました。

制作で苦労したのは、ひまわりの花の部分で、花びら一枚一枚丸みを出す部分が難しく丁寧にすすめました。また、工夫したところは窓枠で、レースのカーテンを用いて窓の雰囲気を出しました。

この作品を通じて、作品展の会場となった札幌市民ギャラリーで皆さんに元気を届けることができたらと願いをこめました。



「元気よ届け！」の想いをこめて



作品を施設の壁一面に展示しました

完成品は、出品する前に施設1階ホールに飾り、入居者の方々や、訪れた家族の皆様にも観賞していただくことができました。

ケアプラザ四街道

「遊びリテーションに子ども神輿がやってきました！」

行事委員会

8月20日（木）の「遊びリテーション」は、いつもとはひと味違う、心温まるひとときとなりました。

毎週木曜日に行っている「遊びリテーション」に、近隣の保育園から園児15名と、3名の引率の先生方が、自慢の手作り子ども神輿を携えて来てくれました。

リハビリ室では、34名の入居者の方々と園児たちが対面し、まずはご挨拶。始めは入居者の方々も、先生方も、園児たちも、少し戸惑っている様子が見られました。

そんな場の空気を一気に和ませてくれたのが、療養中でほぼ寝たきりだった入居者のWさんでした。

園児たちが来るやいなや、「今日はよろしくねー！」と笑顔で声をかけると、自然とその場が和やかな雰囲気に。

そして、可愛らしい「わっしょい！」の掛け声と笛の音に合わせて、いよいよ子ども神輿の登場です。

久しぶりに見る可愛らしい子どもたちの姿と、元気いっぱいの神輿に、入居者の方々も大喜び。

普段は「行事なんて行かない」とおっしゃり、渋い表情をされている入居者の方が、この日は笑顔で園児たちと一緒に写真に納まる姿も見られ、とても印象的でした。

可愛らしい子どもたちの元気な声と笑顔は、入居者の皆さんにたくさんのパワーを届けてくれたようです。

園児の皆さん、先生方、またぜひ遊びに来てくださいね。



可愛らしい「わっしょい！」
の掛け声になごやかムード

「心躍る昭和の名曲！音楽鑑賞会を開催」

総務課

9月30日（水）、地元のボランティ



歌声にのって昭和の時代へ…

アグループ「昭和歌謡楽団」をお招きし、音楽鑑賞会を開催しました。

当日は誰もが知る昭和の名曲が次々と演奏され、入居者の皆様は楽しそうに口ずさんだり手拍子を打ったりと、会場は懐かしいムードと熱気に包まれました。

演奏会はアンコールが2回に及ぶなど大盛況。

終了後、入居者の平山さんからは「期待してなかったけど、本格的ですごくよかったよ」、徳山さんからは「若いころを思い出し楽しかったよ」と、楽団の方へ直接感謝の言葉が伝えられるなど大好評でした。

このところ雨が多くて気分も沈みがちでしたが、皆様の心も晴れ晴れとなる素敵な秋の一日となりました。

ケアプラザ瀬戸

「口腔ケアの重要性を学ぶ研修会」

西川介護課長

6月1日（月）、歯科往診を依頼しているファミリア歯科医院の加藤院長に講師を依頼して「誤嚥性肺炎」及び「オーラルフレイル」の予防について研修会を開催しました。

入居者の方々14名、職員15名が参加し、自身の口腔内の状態を把握すること、口腔ケアを実施することで、フレイルや重篤な疾患を予防する重要性について学びました。

入居者の方々と職員が一緒に学び、知識を共有することで、今後の健康な生活に繋げることができればと考えています。


講師の話を熱心に聞く入居者の方々

「暑い夏を楽しく！クレープ、串カツの屋台も」

総務課

暑い暑い愛知の夏がやってきました。そんな夏を、少しでも楽しもうと今年も納涼祭を実施しました。

コロナ禍以前の様にオープンで賑やかな催しは今も難しい状況ですが、入居者の方々に少しでも楽しんでいただけたらと、実行委員を先頭に介護課職員、総務課職員と給食業者を含め検討を重ねました。

その結果、オープンキッチンのクレープ屋、串カツ、フランクフルトなどの屋台メニューから好きな献立を選んでいただくスタイルに決定しました。

祭り当日の会場では、皆さん思い思いに注文し、楽しみながら料理に舌鼓を打っていらっしゃいました。

そして最後には、恒例のくじ引き大会を行い、ささやかな景品ですが当たった！残念！と全員で楽しいひとときを過ごすことができました。



当たりますように！

ケアプラザ堺

「心をつなぐカバン」

介護課

3年前に趣味で絵手紙を描いている入居者の方から干支の辰の絵を描いたカバンをプレゼントしていただきました。病院の受診に行く際に使ってほしいとくださったもので、看護師は大切に使い続けていました。

長く愛用されたカバンが少しずつ古くなっていく様子を見た入居者の



干支の絵が描かれた“心をつなぐ”カバン

方は「大切に使ってくれていることが嬉しい」と感じ、今回新しいカバンに来年の干支である羊の絵を描き、再びプレゼントしていただきました。

一つのカバンを通して生まれた入居者の方と職員の温かな交流。大切に使う気持ちと、喜んでもらいたいと思う気持ちが、素敵なつながりを育んでいます。看護師は、さっそく新しいカバンを愛用しています。

「みんなで大阪の魅力再発見！」

介護課

今年の外出行事は、「大阪らしい場所へ行こう！」をテーマに計画しています。

9月9日（水）のお出かけは通天閣を予定していましたが、あいにくの雨となり、行き先を人気の水族館、「海遊館」へ変更しました。



雨天の隙をついた集合写真

参加者の多くが初めての訪問で、大きなジンベエザメを目の前にすると「初めて見た！」「思っていたより大きかった」「思いのほか楽しかった」と、驚きや喜びの声が聞かれ、笑顔で楽しまれていました。皆さん思い思いに見学され、楽しいひとときを過ごすことができたようです。

府外から入居された方はもちろん、大阪にお住まいの方にとっても「いつでも行ける」と思うことで、意外と大阪の名所を訪れる機会は少ないものです。今回の外出をきっかけに、大阪の魅力を改めて感じていただけたら幸いです。

今後も外出行事を通して、入居者の方々と一緒に大阪の魅力を再発見できたらと良いと思います。

ケアプラザ呉

「車の歴史と物作りに触れるツアー」

介護課　白水　建一

7月8日（水）マツダミュージアム見学ツアーを実施しました。今回のツアーでは、歴代の車や物作りの歴史に触れ、普段とは異なる環境の中で、多くの発見や学びを得る機会となりました。


車作りの歴史にも興味津々！

工場内の見学では、車が次々と組み立てられていく様子を入居者の方々も真剣な様子で見学され、入居者同士や職員との会話もいつもよりも弾んだ様子でした。

今回の外出は社会との繋がりを感じ、新しい体験を通して、入居者一人一人の興味や関心を広げる貴重な機会になったのではないかと思います。入居者の方々も落ち着いて見学を楽しまれ、笑顔が多くみられました。車に詳しくない入居者の方もガイドが付いていたので楽しめる内容だったのではないかと思います。

「納涼お食事会」

介護課

8月5日（水）に納涼お食事会を開催しました。普段あまり車椅子に乗られない入居者の方も当日は車椅子に乗って参加しました。


ビンゴで入賞し、笑顔の入居者　佐藤さん

ちらし寿司等のお食事を楽しまれた後は、バイキング形式のデザートや飲み物を楽しまれていました。

今回は初めて入居者の方からの提案で、ビンゴゲームを行いました。

上位3位までの景品を獲得しようと、真剣に取り組んでいる姿や「リーチ」とあちらこちらで歓声が上がり、とても盛り上がりました。

入居者の方々の楽しまれている姿や笑顔を見ると、次回の開催が楽しみになりました。

「種から大切に育てた　スイカを収穫しました」

介護課

8月14日（金）入居者の藤高さんが施設の花壇で種から大切に育てたスイカの収穫・お披露目会を行いま

した。
きっかけは生協で購入したスイカを食べた際に「種を活用してみよう」と思ったことから始まりました。施設内の花壇に土と肥料を混ぜ込み、種を蒔きました。「本当に芽が出るのかな」と一抹の不安もありましたが、やがて双葉が出て、本葉が伸び、少しずつツルが伸び始めました。
片手が不自由な藤高さんには水やりなど難しかった所、他の入居者の方の協力もあり、その甲斐あって花が咲き、かわいらしい小さなスイカの実ができました。
ついに収穫の日、たくさんの方の前で、収穫したスイカを切って、藤高さんが初めて味わうと、嬉しそうな笑顔を見せていました。


大切に育てたスイカを手に、笑顔の藤高さん

ケアプラザ新居浜

「15年ぶりのケアプラザ新居浜」

総務課長　那須　浩二

7月1日にケアプラザ新居浜に勤務することになりました那須と申します。
15年ぶりの勤務ということで緊張して出勤しましたが、入居者や職員より「久し振りだね」「戻って来たのか」と声を掛けていただき、緊張感もすぐに解くことができました。
しかしながら、施設内での仕事の仕方、入居者への接し方は大きく変わっている点もあり、色々と教えてもらいながら業務を行う日々を過ごしております。
今回は、総務課長として勤務することになりましたので、施設運営がスムーズに進むよう、業務に励みたいと思っておりますので、皆様よろしくお願いいたします。


那須総務課長

ケアプラザ宇土

「熊本地震への支援に対する御礼」

熊本労災特別介護施設長

ケアプラザ宇土では、7月28日16時27分に震度6強という激しい揺れの地震に見舞われました。
当日は、最高気温が38℃を観測する猛暑で、発災直後から大変厳しい状況となりました。
発災以来、本部、各施設、労災年金支援センター、宇土市、全国自治体、国交省、熊本労働局など関係の皆様から、人員派遣、支援物資、空調用の水などの提供や、励ましのお言葉など、数多くの温かいご支援をいただきました。
発災直後の過酷な状況の中でお寄せいただきましたご支援は、入居者の方や、職員にとってもたいへん大きな励みとなり、介護サービスの提供をなんとか維持することができました。
改めてご支援いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。
現在、当施設では、一日も早い日常を取り戻すべく努力しておりますが、今後、施設損壊箇所の工事を控えるなど、まだ道半ばであります。これからも、完全なる施設の復旧・復興に向け職員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。


地震により、被害を受けた南棟東側出入口部分

「施設実習を通して」

尚絅大学短期大学部　食物栄養学科
園田有希乃　平田都咲

私たちは9月7日から9月11日までの5日間ケアプラザ宇土での施設実習でお世話になった尚絅大学短期大学部食物栄養学科の園田と平田です。地震直後という大変な時期にも関わらず入居者様や職員の方々が温かく迎えてくださり、とても感謝しております。
実習では、普段お話しする機会のない入居者様と好きなお食事の話や過去にされていたお仕事などの話を聞くことができ、楽しい時間を過ごしました。また、「災害時のお食事に



居室訪問の記念撮影　入居者の山下様(中央)、左から実習生の坂本 桜子さん、出田 千恵さん、平田 都咲さん、園田 有希乃さん

ついて」のアンケートを実施し、たくさんの意見をいただき、学びにもなりました。

カンファレンスにも参加させていただき、いかに多職種との連携が大切なのかも実感することができました。調理現場では、切り込みや盛り付け、配膳などをさせていただいた中でも効率よく作業を進める大変さを肌で感じました。

今回の学びや経験を将来に生かして、これからも精進していきます。ありがとうございました。

「ふれあい喫茶に参加して」

尚絅大学短期大学部　食物栄養学科

出田千恵　坂本桜子

私たちは9月5日から9月11日までの5日間、ケアプラザ宇土での事業所実習でお世話になった尚絅大学短期学部食物栄養学科の出田と坂本です。

9月9日に施設行事『ふれあい喫茶』に参加し、デイルームで入居者様と交流をさせていただきました。最初は入居者様とうまくお話しできるか不安でしたが、会話をしていくうちにいつの間にか緊張もほぐれリラックスしながら会話を楽しみました。好きな食事や趣味などさまざまなお話を通して、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

会話の中で特に印象に残っているのは、好きな食べ物をお聞きした際に「メダカの刺身が好き」とお話されたことです。とても驚きましたが、入居者様のユーモアあふれる一面を見ることも出来ました。



ふれあい喫茶でお話する入居者様と実習生

話の最後には、入居者様から「今日は1日楽しかった」ということを言っていただき、とても嬉しかったです。

今回の入居者様とのお話で得た学びを活かして、コミュニケーション力を高めていきたいと思います。ありがとうございました。

心をこめて作られた作品の数々に、300人を超える来場者から感動の声！

第21回労災重度被災者作品展を開催しました

当財団では令和8年9月16日から18日までの3日間、北海道札幌市にある「札幌市民ギャラリー展示ホール1・2」において「第21回労災重度被災者作品展」（リハビリからアートまで）を開催しました。

この作品展は、労働災害で重度の障害を負った方々が、多くの困難を克服し制作した作品を展示するもので、中央労働災害防止協会が主催する全国産業安衛生大会に合わせ開催しています。





☆財団HP「労災重度被災者作品展」のページで、「第21回開催結果」をクリックしていただくと、作品等がご覧いただけます。

作品展には、66名の方々から129作品が出展されました。

そのうちケアプラザの入居者37名の方々から68点の作品が寄せられています。

展示会場には、地元のケアプラザ岩見沢の入居者の方々、全国産業安全衛生大会に参加された企業の安全衛生担当者などの方々が来場され、また、市民ギャラリーで行われているイベントに来られた方にも大勢訪れていただき、三日間の来場者は310人となりました。

当日アンケートには、「元気をもらった。すごい作品だ」「自分も障害を持っているので、思うところがあった。」「すばらしい作品ばかりで感動しました。」などの声が寄せられました。